

(続 東田りん)

大食天の命様わ、金のうちのはがねに、こころいりこんで、ごしごうしてくだされます御神様でござります。この理を心におさめさして頂きませねばなりませんものでござります」(22オ)

大斗辺の命様

大斗辺の命様わ、こう〔子〕のできさして頂きますときに、たいないより、ひきだしのごしごうして頂きます御神様でござります。おびやさして頂きますときに、ひきだして頂きますので、こうがうまれさして頂けますものでござります。あとじまいして頂きます御神様わ、くにさつちの命様でござります。この」(22ウ)

御神様わ、あとさんともうさして頂きます、よなをはっさんさしていただきます御神様でござります。こうをせいじんさして頂きますように、つないでありましたふるちも、はっさんさして頂き、またこのせいじんさして頂きますほどに、のぼしてくだされました、かわとすじとを、もとのとうりにちじめて頂きまして、きれたところのかわも、もとのむすめのとを」(23オ)

りにして頂きますで、それで親もまめな、こうもまめなと申さして頂いてをりますのでござります。うたがいのござりませんこと、せかいにおびやのときに、もちごもりのおかたもござりますれば、おいしやに、きかいでひっぱりだしたり、きりだしたりしてもろうていなさる、おかたもござります。ふるちがのこりますと、さんごのわづらいや、ちのみちやと申さして頂きまして、あちらのあしがしび」(23ウ)

れる、こちらのてがうづく、めがみへん、みゝがきこへん、かしがのぼせるともうしなされて、こまっていなさるおかたもござります。こうをうまして頂きますときに、さんともうさして頂いてをりますのわ、三人の御神様がおかゝりくだされますのでござります。人間わこうをうまして頂きますことを、さんともうさして頂いてをりますのでござります。このできさして頂き」(24オ)

ましてたときにわ、めもあいてござりませんときから、ちゝのむちゑをあたゑてもらい、すぐにおやのたいないから、ちゝをあたゑてくだされ、む月たちましたら、はがはいかけさして頂きますれば、七月たちましたら、こしがすわりかけ、九月十月たちますと、ぼちへはいだすようにならして頂き、三さいにならして頂きましたら、ものをゆわしてもらいかけますよう」(24ウ)

にして頂き、十五才にならして頂いたならば、おうかた一人まへのせふしがのびさして頂きまして、おふかた一人まへの、ちゑもできさして頂きますのでござります。みな人が、まわりもさして頂きましたこともござりませねば、またこしらゑさして頂きましたことわ、一つもござりません。これみなひとりできさしていたゞきますのが、ふしぎと申さしてもろふて、お」(25オ)

りますのが御神様のごしごうでござりますと、おふせくだされますのでござります。

世界でわ、よろづのものをひきだしのごしごうをなしくだされ

ますと、おふせくだされますのわ、土の中よりめへをひきだしてくだされ、ふゆわ、かれきのようになりてござります木でも、春になりましたなれば、めへをひきだして頂きますで、ゑだもはもさかゑ、また」(25ウ)

たいばくとなして頂きますのでござります。冬わ、かれしばのようになりてござりますものも、春になりましたなれば、しんめをひきだして頂きますから、あをしぼとなしくだされますことを、よろづしんめひきだしてくだされますと、もうさして頂いてをりますのでござります。そのうゑ、はもおこしらゑ花をさかして頂けば、みもならして頂き、あじも、こ」(26オ)

しらゑて頂きますのわ、これみな月日様のごしごうでござりますと、おふせくだされますのでござります。人間にわ、こうをあたゑて頂きまして、そのうへ、ごこくをあたゑて頂き、百姓百しなあたへくだされまして、ばんじくだものまでもおあたへくだされまして、ねんへ月々に花のさかん月わなし、はなの三月と申しまして、ゆきの中でも花のさいてくださる木もござり」(26ウ)

ますれば、そらとぶ鳥をとばしてくだされまして、うるわしきなくとり、なくむしの、こゑまできかしてくだされまして、人間のようきに、おこしらへおなしくだされ、これだけようきにおこしらへくだされましたら、ま、ひとつ、ふじさいなんや、やまいのねへをきって頂いたらと、おもわして頂きますか、なれども、にちへに人をうらんだりうらまれたり、はらをたて」(27オ)

たり、たてさしたりして、とうりますところが、つもりかさなりまして、ふじさいなんや、びよふき、びようなんのねゑとなると、おふせくだされますのでござります。」(27ウ)

八ツのほこり

御神様のからだを、わがみのものと申さして頂き、御神様によるづの事をして頂いております事を、我身の心でさして頂いておりますと、申さして頂いております。心がござりますで、わがみと申さして頂いております。心が八つのほこりになりますと、御神様よりおふせくだされますのでござります」(28オ)

ほしいのほこり

ほしいともうさして頂きますほこりわ、人様のみのかつてのよろしいよう、人様のうちのかつてのよろしいよう、どんな人様にでも、人様の心のかつてのよろしいようにさして頂きませねばなりませんのに、それにわがみのかつてのよろしいよう、わが子の、かつてのよろしいようにさして頂きます心がござりますれば、ほしいともうさして頂きます、ほこりになりますと」(28ウ)

御神様よりおふせくだされますのでござります。そのほこりになります心がござりますれば、心どうりのごしごうでござりますから、天の理で人様からかつてのよろしいようにして下さらず、むりなこと申しなされましたり、しなされましたり、かつてのわるうなりましたら、そのときにへんじんな人や、きのみじかい人でどんなりません。きのながい人や、なまくらな人や、よくのつよい人や、うそを」(29オ)

もうしなざる人で、どんなりません。よくのない人や、どんな人や、そのほか、あんな人もどうもなりませんと、心でおもわして頂きます心がござりますと、ほしいともうさして頂きますほこりになりますと、御神様よりおふせくだされますのでござります。」(29ウ)

をしいのほこり

人様にまんぞくをして頂きますよふに、おもわして頂き、さして頂き、もろうて頂きまして、まんぞくをして頂きませねばなりませんのに、それに、このくらいにまで、おもわして頂き、このくらにまでさして頂き、こんなものをもろうて頂きました事もござりましたのに、それに、そうとおもいならず、おんのしりなさらん、さして頂きましたかいの」(30オ)

ない人やなあと、もうさして頂きます心がござりますれば、をしいと、もうさして頂きますほこりになると、おふせくだされますのでござります。そのほこりになります心がござりましたら、心どうりのごしゆうごうでござりますから、天の理で人様から、まんぞくをさして頂きますように、してくださいらず、むりなことをもうしなされましたり、しなされまして、まんぞ」(30ウ)

くをさして頂きますことでできません。ときに、十年も二十年もあとの事でも、おもいだして頂きまして、このくらいにまでさして頂き、こんなものも、もろふて頂きました事も、ござりましたのに、それをそうとおもいなさらず、おんのしりなさらん、さして頂きました、かいのない人やなあと、心でおもわして頂きます心がござりますと、をしいのほこりになります」(31オ)と御神様より、おふせくだされますのでござります。

かわいのほこり

人様の身の為によろしいよう、人様の子のためによろしいよう、人様のうちのためによろしいよふに、人様にもものをつけさして頂きまして、人様をかわいがらして頂きませねば」(31ウ)

なりませんのに、それにわが身のために、よろしいよう、わがうちのためによろしいよう、わが子のためによろしいよう、じぶんのために、ものをためさして頂きます心がござりますれば、かわいともうさして頂きますほこりになりますと、御神様よりおふせくだされますのでござります。このほこりになります心がござりますと、心どうりのごしこふでござりますから、天の理で人」(32オ)

さまから、ためによろしいよふにしてくださいらず、むりなことをもうしなされましたり、しなされまして、ためのわるいようになされまして、むこうのかつてのよろしいよふになされて、わたしのことをおもうてくださいませんもの、わがみのためによろしいよう、わがこのためによろしいよふ、わがうちのためによろしいよう、じぶんのためにことをおもふて、ものをため」(32ウ)

さして頂きまして、つけてつながして頂きますよふな心がござりましたら、親子、兄弟、夫婦、親類、ともだちのところまで、きれ〜になるのでござりますから、その心がござりましたら、かわいともうさして頂きますほこりになりますと、御神様より、おふせくだされますのでござります。

にくいのほこり

人様の身をおもわして頂き、人様のおたすけを」(33オ) さして頂き、人様の心をよろこんで頂きますことに、つうばり、ふんばりさして頂きませねばなりませんのに、それにわがみの事、わがこのこと、わがうちのこと、わがみ人様のこ、人様のうち、人様のもの、どうなるふがかまいませんような、心のつよい、つっばりのつよい、ふんばりのつよい心がござりますれば、にくいと、もうさして頂きますほこりになりますと、御神様より、おふせくだされますのでご」(33ウ)

ります。そのほこりになります心がござりましたら、心どうりのごしゆうごうでござりますから、天の理で人様からたすけてくださらず、むりなこと申しなされましたり、しなされましたときに、このようにも、もうしなされたことや、しなされましたことがござりますのやから、わがみのおもわして頂だけ申さして頂き、さして頂きましたらと、おもわして頂きますような、心のつよ」(34オ)

い、つうばりの心のつよい、ふんばりのつよい心がござりましたら、にくいと申さして頂きますほこりになりますと、御神様よりおふせくだされますのでござります。

うらみのほこり

人様にまんぞくをして頂き、心のみこんで頂き、あんしをして頂き、あんしんをして頂きませねばなりませんのに、それにあほうな人や、びんぼうな人」(34ウ)

や、めしたの人や、みうゑの人でも人様に、みさげられていなざるような人から、ていねいにものをもうしてくださいませても、はなでへんじをさして頂きますような心があり、また、おまいのう、おまいところのう、と、したながにものをもうさして頂きます心がござりますれば、うらみともうさして頂きますほこりになりますと、御神様よりおふせくだされますのでござります。そのほこりになり」(35オ)

ます心がござりますと、心どうりのごしゆうごうでござりますから、天の理で人様からまんぞくをさして頂きますことをしてくださいらず、むりなこともうしなされましたり、しなされまして、まんぞくをさして頂きますことをできませんような、ゑらい人さまや、かしこいお人、しんしようのよい人さま、みうゑの人様にでも、ものを申さして頂きますときに、かしらにきせて頂いてをり」(35ウ)

ますものでもござりましたら、それをとりて、こゝしをかゞめて、ていねいに、へい、はいと、ものをもうさして頂きます心がござりましたら、うらみともうさして頂きますほこりになりますと、御神様よりおふせくだされますのでござります。

はらだちのほこり

きのながい、どんな人様にでも、心をあわせさし」(36オ) て頂きまして、いつもかわりませんように、つきやいをさして頂きませねばなりませんのに、そにたんき、かんしやく、きのみじかいきまゝ心から、わがみの、おもわして頂きますように、もうさして頂きましたら、さして頂きますれば、はらだちともうさして頂きますほこりになりますと、御神様よりおふせくだされますのでござります。(36ウ)